

当報告の内容は、報告者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

タイトル：「『アルタイ型』言語に関する類型的研究」（2015年度第2回（通算第2回）研究会）

Title: Typological Study on “Altaic-type” Languages (The 1st meeting)

日時：2015年10月3日(土)

Date/Time: 3 Oct. 2015

場所：AA 研マルチメディア会議室 (304)

Venue: Room 304 (Multimedia Conference Room), ILCAA

Language: Japanese

1. 白尚燁（AA 研共同研究員，北海道大学大学院）「地域言語学的観点からみたツングース諸語の副動詞語尾 *-mi* と *-rAk-*」

（要旨）本発表は、ツングース諸語の副動詞語尾 *\*-mi* と *\*-rAk-* に見られる言語間の相違を示し、この違いが周辺言語との接触に起因する可能性を提起した。本発表では、副動詞の形態・統語及び意味パラメータ（人称標示、数標示、補助動詞、発話動詞の補文標識化、条件、主題・対比標識、相関構文）を取り入れ、ツングース諸語における副動詞語尾 *\*-mi* と *\*-rAk-* と周辺言語（コリマ・ユカギール語、サハ語、モンゴル諸語（ブリヤート語、ダグール語、モンゴル語）における未完了副動詞と条件副動詞について考察した。

その結果、南ツングース諸語の副動詞語尾 *\*-mi* と *\*-rAk-* は、それぞれモンゴル諸語の未完了副動詞（人称の非標示、数の非標示、補助動詞、発話動詞の補文標識、条件文の非構成、相関構文の非構成）と条件副動詞（人称標示の非義務制、条件文の構成（指示転換の非制約・意味類型）、条件小詞の発達、条件小詞による主題・対比標識、相関構文の構成）に共通した特徴を有していることがわかった。これらの多くは、北ツングース諸語の対応する副動詞の特徴と明らかに異なっている。さらに、東ツングース諸語は、補助動詞、発話動詞の補文標識、コピュラ動詞による条件小詞の発達、条件小詞の機能（指示転換の非制約・意味類型）、条件小詞による主題・対比標識において、モンゴル諸語の特徴と部分的に類似している。したがって、ツングース諸語の副動詞語尾 *\*-mi* と *\*-rAk-* における言語間の違いは、モンゴル諸語の影響によって生じた可能性が考えられる。

2. （全員）「連辞性」に関するデータ報告および総合討論

第1回研究会後に「アルタイ型」言語の共通特徴と推測される「連辞性」に関連する

形態・統語構造上の特徴（下記約 50 項目）を指標化し、それぞれが研究対象とする言語でどのようなふるまいを見せるのか、報告したうえで比較検討を試みた。

#### 1. 語順

1. SOV 語順か（SOV 語順に関する例外があるか。あればどのような場合か）
2. AN 語順か（AN 語順に関する例外があるか。あればどのような場合か）
3. AN の A に立ちうるものにはどのような要素があるか。

#### 2. 文法関係

1. 中核項（主語・目的語）と述語の文法関係は主に何によって示されるか。
2. 主要部標示型か、従属部標示型か。

#### 3. 主格・対格は明示的か。

1. 述語に人称変化はあるか／名詞述語文・動詞述語文ともに人称変化があるか。
2. 中核項（とくに主語）は文中に現れなくともよいか（pro-drop の言語か）
3. 節と句の区別は明確か。
4. 従属節と等位節の区別は明確か。

#### 4. 他動性

1. 他動詞と自動詞は異なる形か／異なる場合、自他对立を持っているのはどのような動詞か（非対格動詞？）
2. 自→他への派生、他→自への派生、どちらが多いか。

#### 5. 語形成

1. 接頭辞はあるか／あるとすればどのような機能の接頭辞か
2. 同じ機能の形態素を二つ以上重ねて接続することができるか（二重使役・二重複数など）。あるとすればどのような機能か。またその形態素の形は同一か否か。
3. 複合語はあるか。ある（認める）とすればそれはどのような語類の組み合わせか。
4. 「複合語」は本当に一語か。
5. 重複：完全重複はあるか。あればどのような機能か。
6. 重複：重複した要素 [Word#RDP] は一語か。

#### 6. 名詞の文法カテゴリー

1. どのようなカテゴリーがどのような順序で名詞内部、もしくは名詞の外に現れるか（後置詞も含む）
2. 格の重複はあるか。あればどのような組み合わせかあるか。
3. 情報構造（主題・総記・文焦点など）を示す、名詞の外に着くものにどのようなものがあるか。なければどのような方法で主題などを示しているか。
4. 格と情報構造の要素の融合はあるか（つまり、定対格／不定対格などがあるか）

5. いわゆる DOM (Differential Object Marking) はあるか。Animacy は格選択と関わりがあるか。
  6. 属格があるか。属格に主格・対格的な機能はあるか。あればどのような場合か (たとえば従属節内部で主語をあらわす、など)
  7. 従属節中の斜格主語はあるか。あればどのような格が用いられるか。
  8. 同一文中での**格の重複**を許すか。許さない場合、どのような手段が取られるか。
  9. 名詞に (所有者) 人称は標示されるか。再帰 (所有) を示す要素があるか。
  10. **名詞の数、性などは屈折的か**。他に何か名詞類別があるか。
  11. 助数詞、類別詞のようなものがあるか。
7. 動詞の文法カテゴリー
1. 全般
    0. **どのようなカテゴリーがどのような順序で現れるか。つまり、動詞複合体はどのような構成になっているか (後置詞も含む)**
    1. 上記カテゴリーのうち、屈折的なカテゴリーはどれか。
    2. **屈折と派生の区別は明確か、連続的か。**
    3. 文法的派生/語幹拡張というべきカテゴリーはあるか。
    4. 違う順序を許容する、つまり**2通りの接続順序のあるものはあるか** (たとえば、「食べられさせた」「食べさせられた」の双方が可能かどうか、など)
    5. (定形だけでなく、非定形も含め、)**動詞に主語人称は標示されるか** (2.4 は主節述語に関する人称標示のみ。こちらはそれ以外のものを含む)。
    6. **否定**はどのようにあらわされるか。どのような位置に現れうるか
    7. 命令や勧誘はどのような形式で示されるか。勧誘と推量はどのような関係にあるか。
    8. **文法化した動詞 (つまり補助動詞) はあるか**。どのような種類の動詞か。どれくらいあるか。本動詞語尾+補助動詞が融合しているものはあるか (~して、など)。もしくは、歴史的に融合したことが分かっているものはあるか (~しちゃう、など)。
  2. 非定形 (準動詞)
    0. 準動詞 (副動詞・形動詞・名動詞) は**屈折的か、派生的か**。
    1. 形動詞 (分詞)
      1. 形動詞の**種類**はどれくらいあるか。**時制やアスペクトとの関連**はどうか。(形動詞・副動詞に類するカテゴリーがなければ、2.2 と 2.3 をまとめ、非定形動詞としてコメントしてください)
      2. 形動詞の使用に制限はあるか。
      3. **内の関係も外の関係も表せるか**。
      4. **関係節的な意味のものも、補文節的な意味のものも表せるか**。
    2. 副動詞
      1. 副動詞の**種類**はどれくらいあるか。

2. 異主語の連結ができるかできないか。もしくは異主語を許す副動詞と許さない副動詞にはっきりと分かれるか。人称をとる副動詞はあるか。
3. いわゆる物語的連鎖（～して、～して、～して）は副動詞によって表わされるか。つまり鎖型といえるか。表わされるとしたら、どのような副動詞が用いられるか。
4. 物語的連鎖を示す副動詞は他にも機能があるか。目的や（確定）条件なども広く表せるか。

#### 8. 名詞述語文

1. コピュラはあるか。少なくとも否定や過去ではコピュラが必要になりそうだが、その場合に用いられる要素はどのようなものか。
2. コピュラは複数種あるか。あればモダリティやアスペクト、animacy などと関係があるか。
3. 分裂文や疑問文との関係はどうか。
4. 否定は動詞述語文と異なるか。異なるとしたらどのようにあらわされるか。